

## Ⅱ 解説編 1 家庭学習の質向上に向けた取組の意義

「学級によって、宿題の内容や量が違う」「子どもが意欲的に取り組まない」「提出することが目的となっている」など、家庭学習について改善が必要だという声が多く聞かれます。また、各地域や保護者からも、家庭で勉強をする子どもとしない子どもの二極化がみられる、家庭学習の分量や内容が学年に合っていないなどの声が聞かれました。家庭学習の充実は、主体的に学ぶ力の向上など、学力向上を支える基盤づくりとしてたいへん重要です。

### 家庭学習の意義（例）

- 学習習慣（自己管理能力）を身に付け、自ら学びに向かう姿を育てる。
- 基礎的・基本的な知識・技能の定着や、応用力・活用力の育成を図る。
- 自分で目標や課題を見つけ、解決していく力を身に付けさせる。
- 家庭生活・地域・社会に興味・関心を持ち、学習とつなげる。
- 読書や図書館に親しむ姿を育てる。

（「学力向上を支える基盤づくりに向けて」平成30年3月 鳥取県教育委員会発行より）

### 平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査より

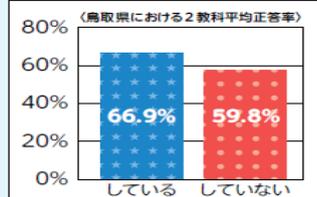
#### 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか

児童生徒質問紙

小学校（鳥取県）

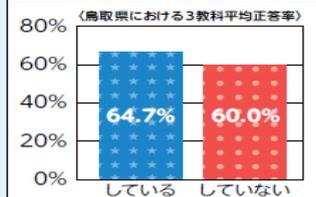
中学校（鳥取県）

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



7.1ポイント差

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



4.7ポイント差

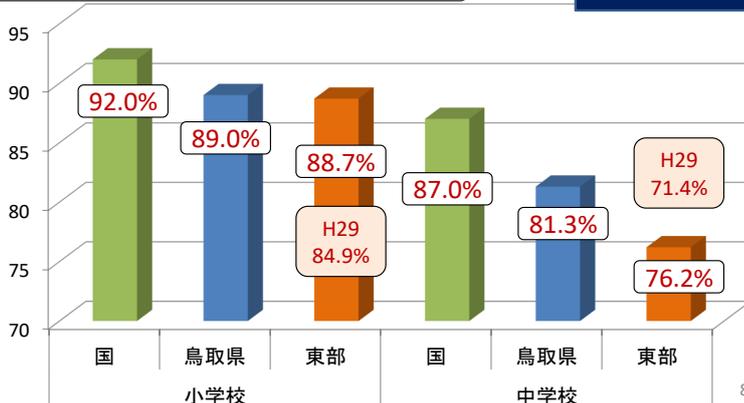
「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」という質問に対して、「している」と回答した児童生徒は、「していない」と回答した児童生徒に比べ、平均正答率が高いことが分かります。家庭学習を計画的に取り組むことは、学力向上を支えることにつながると考えられます。



調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか

よく行った・どちらかといえば行った

学校質問紙



「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか」という質問に対して、肯定的な回答をした割合は、鳥取県及び東部地区では、全国平均と比べ低いことが分かります。各校において、教職員が共通理解して、児童生徒に家庭学習を与えていく必要があります。